

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和元年10月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。

山頂付近では火山性地震の活動がやや活発な状況が引き続き認められ、また、^{めだけ}女岳では地熱活動が続いていることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～図10、図11-①）

2日に岩手県の協力により実施した上空からの観測では、女岳付近に特段の変化はなく、^{おなめ}男女岳^{だけ}付近にも特段の異常は認められませんでした。また、2日から4日にかけて実施した現地調査では、女岳の北斜面の一部で地熱域がわずかに拡大した可能性があるものの、女岳付近の地熱域や噴気の状況に大きな変化は認められませんでした。

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、女岳からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図11-②～⑤、図12）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動及び低周波地震は観測されませんでした。

山頂付近では、2017年9月頃以降、火山性地震の活動がやや活発な状況が引き続き認められています。

・地殻変動の状況（図13、図15）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年11月分）は令和元年12月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の状態（10月15日）
 ・東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約5km）の映像です。
 ・女岳からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

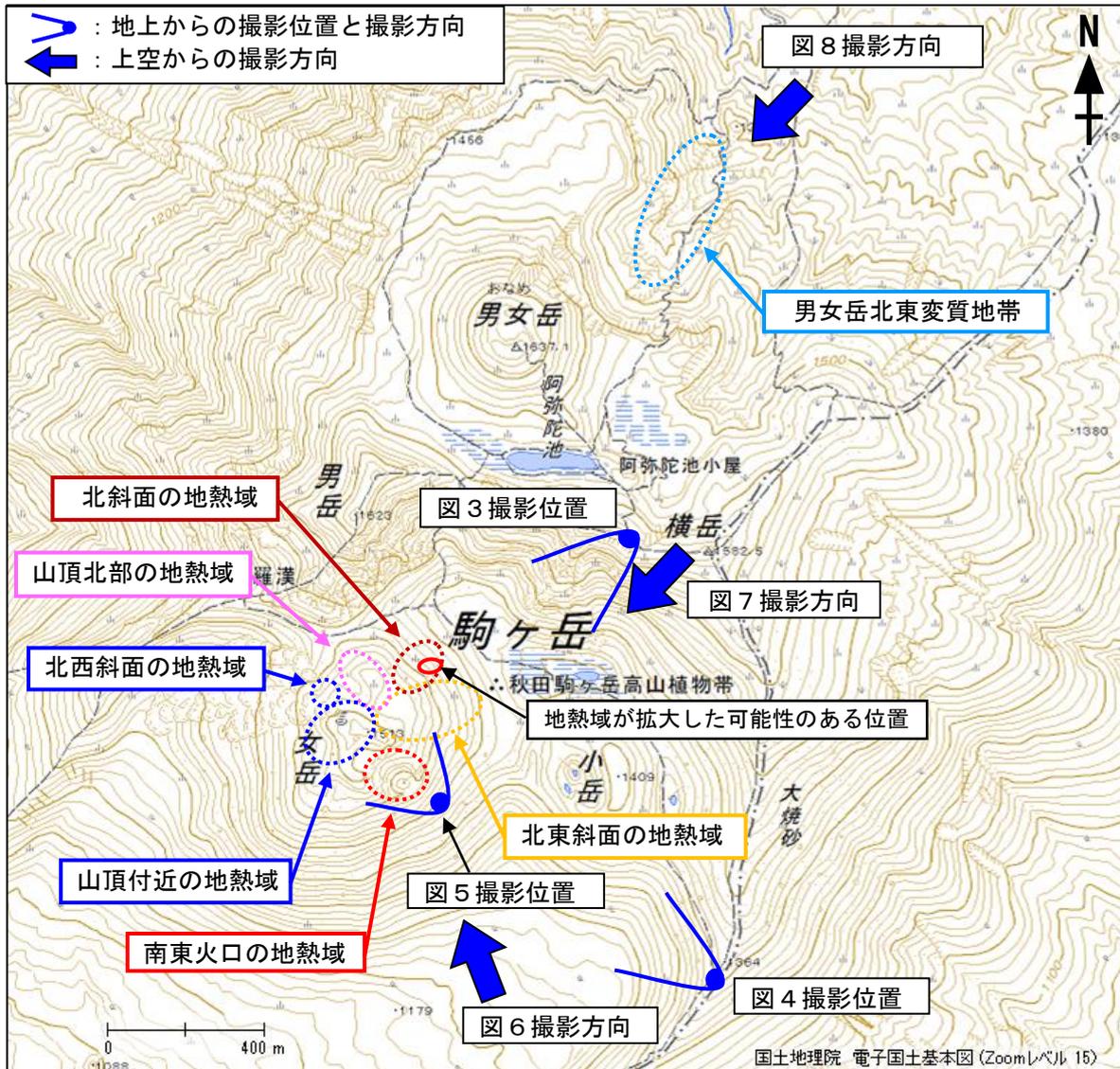


図2 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影位置及び撮影方向

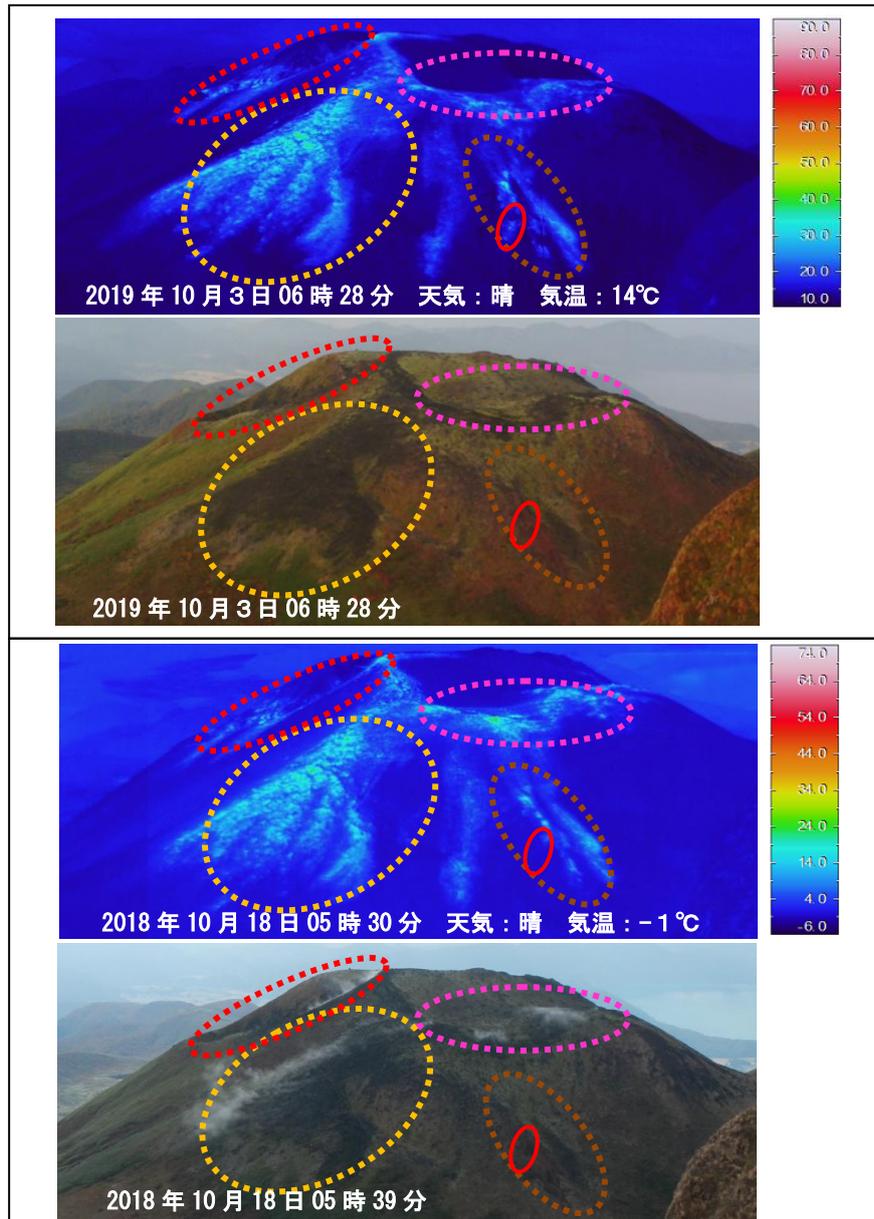


図3 秋田駒ヶ岳 北東方向から撮影した女岳の状況と地表面温度分布

- ・ 女岳の北斜面の一部（赤丸）で、地熱域がわずかに拡大した可能性があるものの、山頂北部（桃破線）、北斜面（茶破線）、北東斜面（橙破線）、南東火口（赤破線）のいずれにおいても、これまでと比較して大きな変化は認められず、引き続き地熱、噴気活動が継続していることを確認しました。
- ・ 図中の破線の色は図2に対応します。

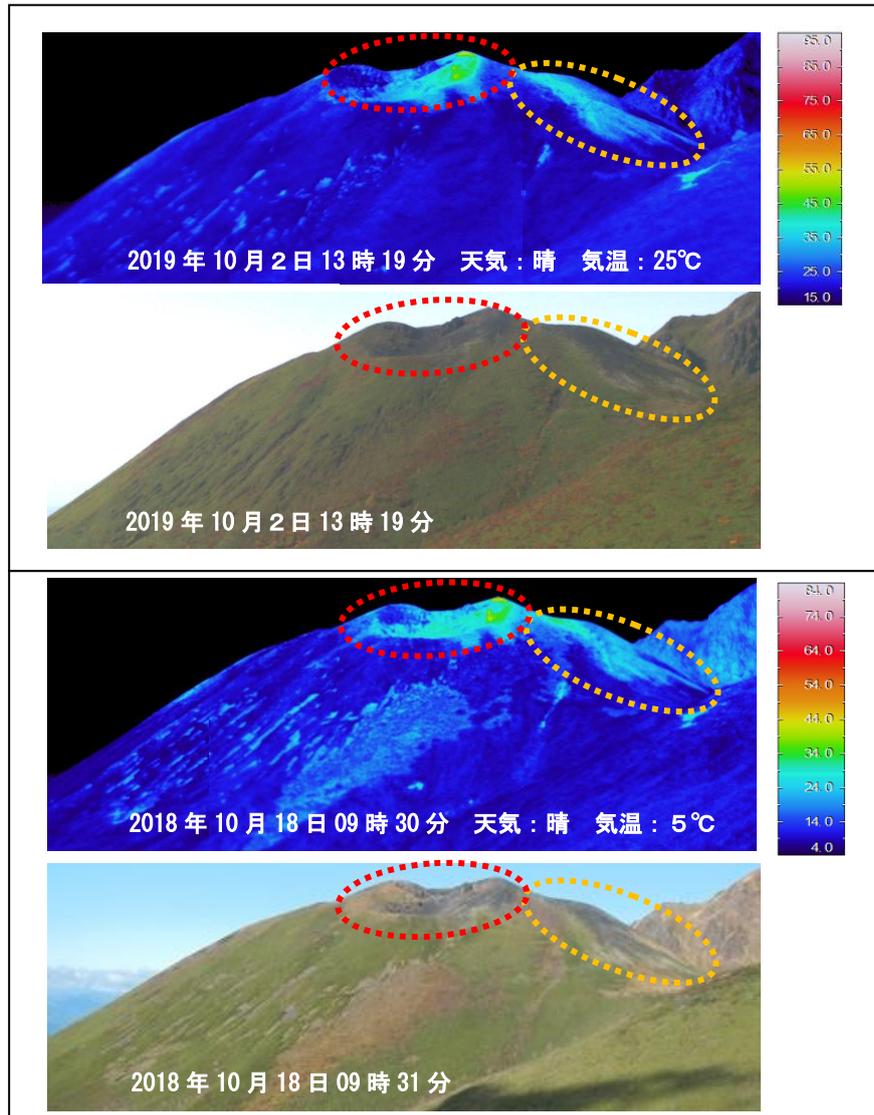


図4 秋田駒ヶ岳 南東方向から撮影した女岳の状況と地表面温度分布

- ・南東火口（赤破線）及び北東斜面（橙破線）の地熱域に、これまでと比較して特段の変化は認められませんでした。
- ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。破線領域外の地表面温度の高い領域は日射による影響で、地熱域ではありません。
- ・図中の破線の色は図2に対応します。

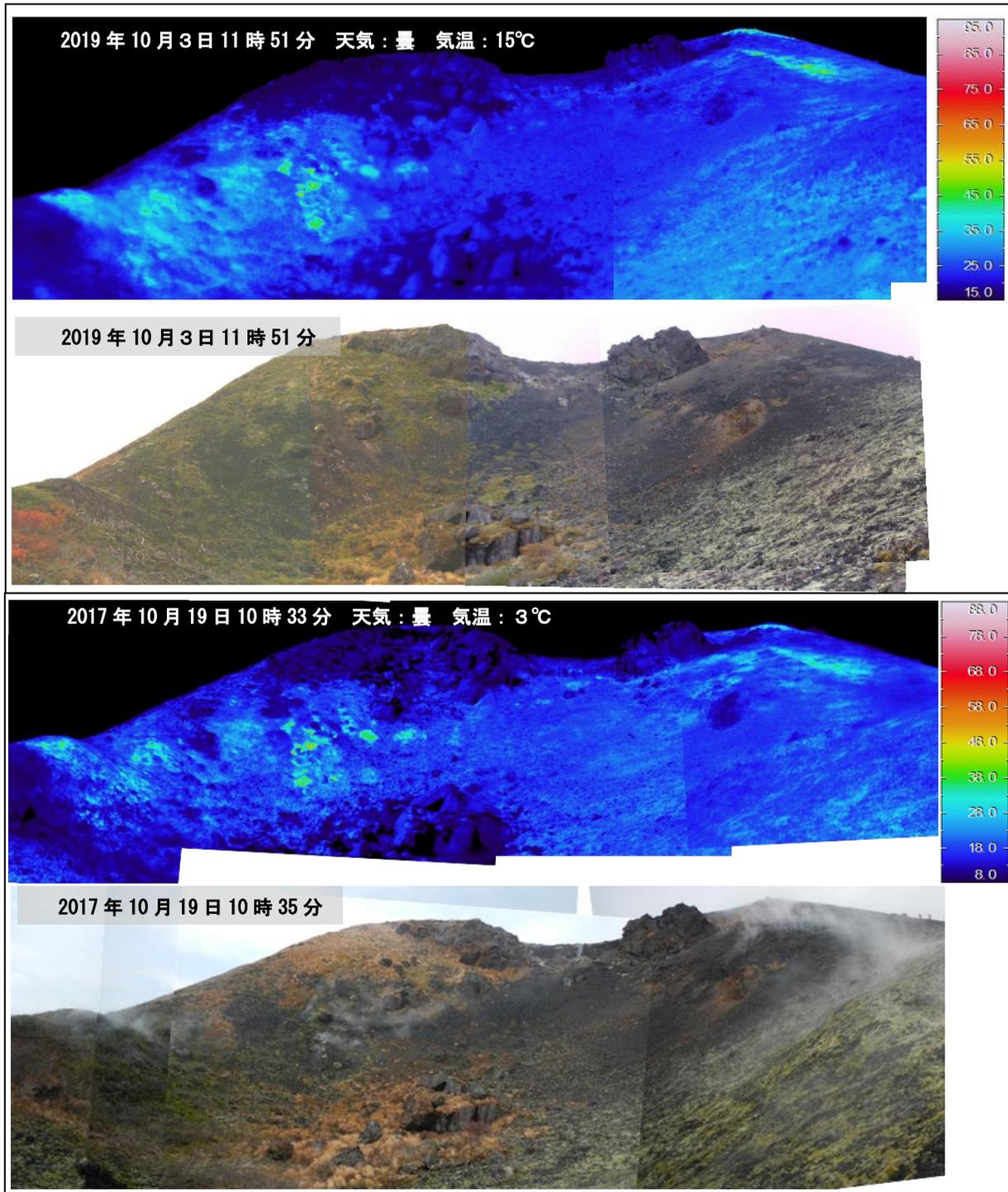


図5 秋田駒ヶ岳 南東方向から撮影した南東火口内の状況と地表面温度分布
・南東火口内では、特段の変化は認められませんでした。



図6 秋田駒ヶ岳 上空から撮影した女岳南東火口の状況

- ・噴気は確認されませんでした。
- ・図中の破線の色は図2の線の色に対応します。

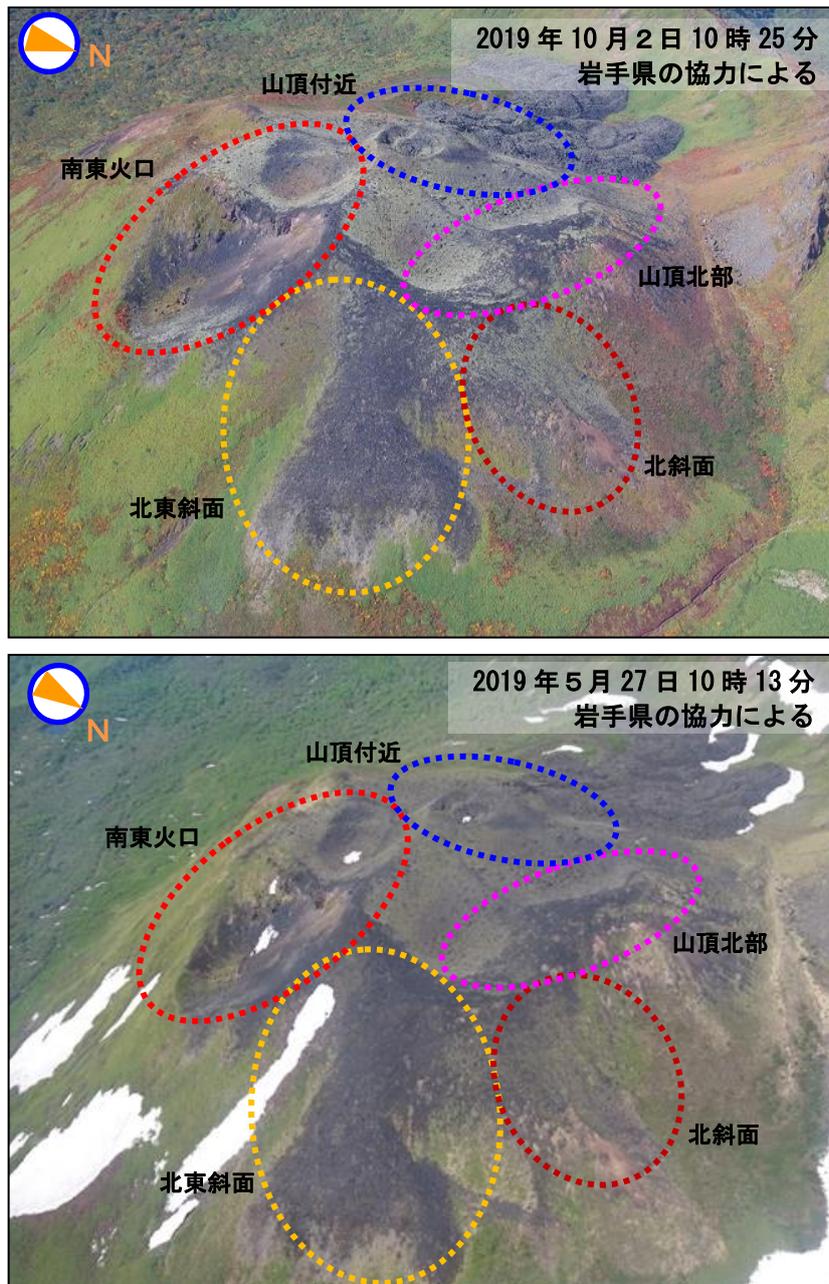


図7 秋田駒ヶ岳 上空から撮影した女岳南東火口、北東斜面、北斜面、山頂北部及び山頂付近の状況

- ・噴気は確認されませんでした。
- ・図中の破線の色は図2の線の色に対応します。



図8 秋田駒ヶ岳 上空から撮影した男女岳の状況

- ・噴気は確認されませんでした。
- ・図中の破線の色は図2の線の色に対応します。

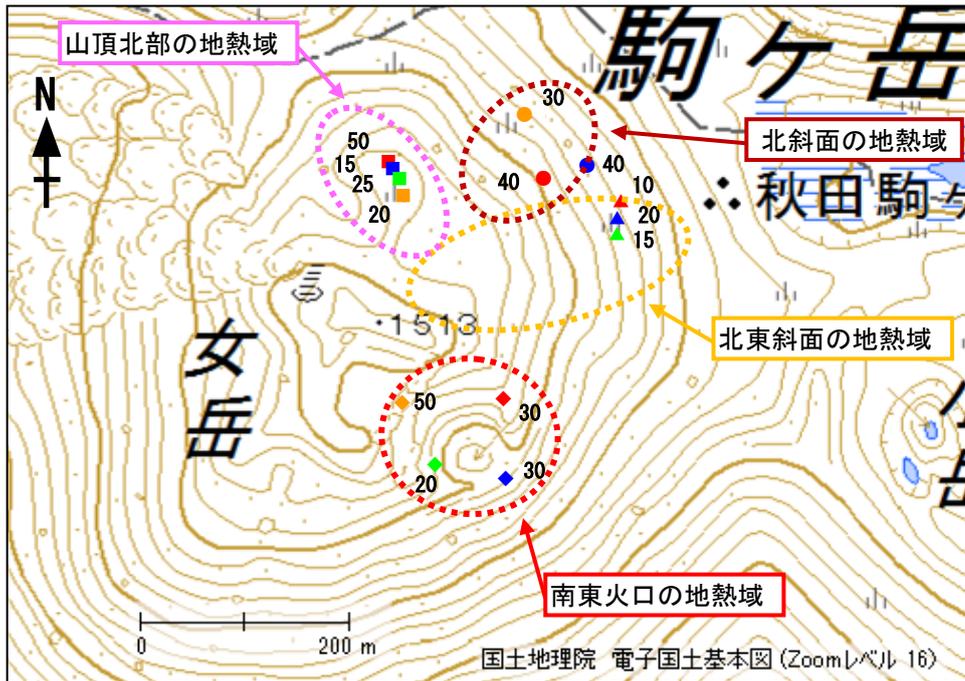


図9 秋田駒ヶ岳 女岳の地中温度測定位置

- ・ 図中の■●▲◆は測定位置を示します。形と色は図 10 に対応しています。数字はこれまでの平均的な測定深度 (cm) を示します。

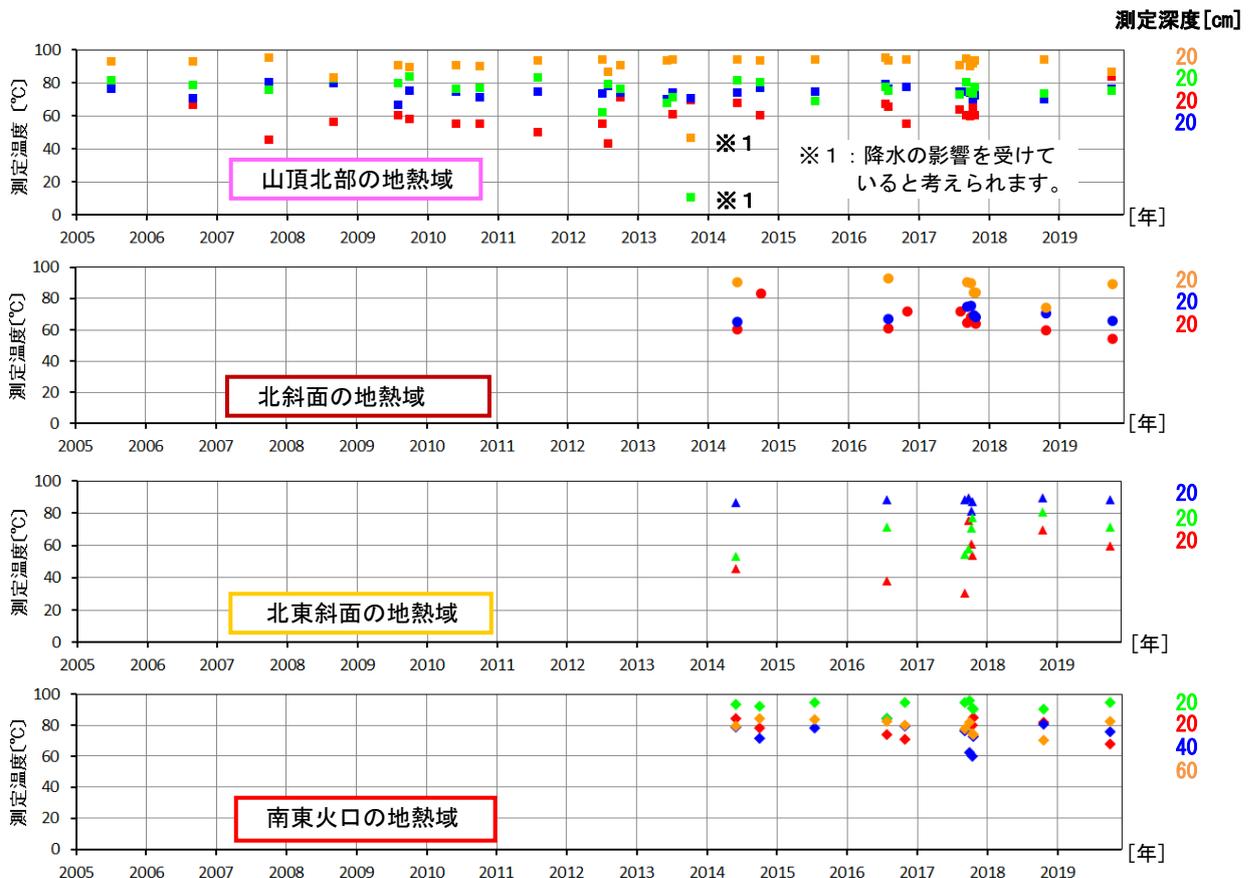


図 10 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域における地中温度 (2005 年 7 月～2019 年 10 月)

- ・ 前回 (2018 年 10 月 18 日) と比較して地中温度に大きな変化は認められませんでした。
- ・ 測定位置は図 9 に対応します。
- ・ 図の右端の数字は 10 月 3 日の測定深度 [cm] を示します。

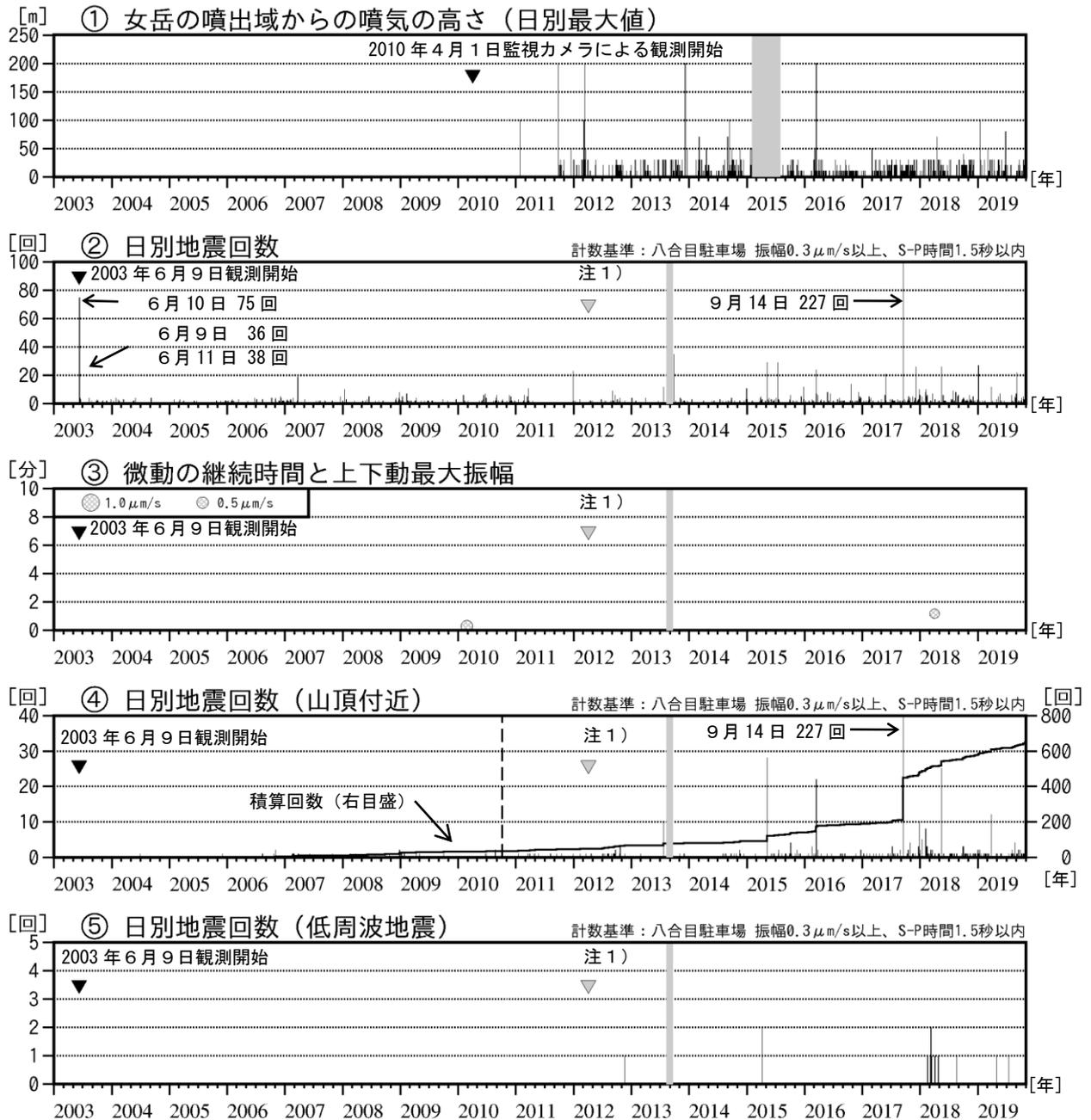


図11 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2019年10月）

- ・①東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約5km）による観測です。
- ・①～⑤の灰色部分は欠測を表しています。
- ・④は計数基準を満たす火山性地震のうち、山頂付近で発生したと推定されるものの回数で、2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（グラフ中の破線）以降は、山頂付近で発生している地震を概ね判別できていると考えられます。
- ・地震の計数基準観測点の変更は次のとおりです。
 観測開始 2003年6月9日～ 東北大学秋田駒ヶ岳観測点
 注1) 2012年4月1日～ 八合目駐車場観測点

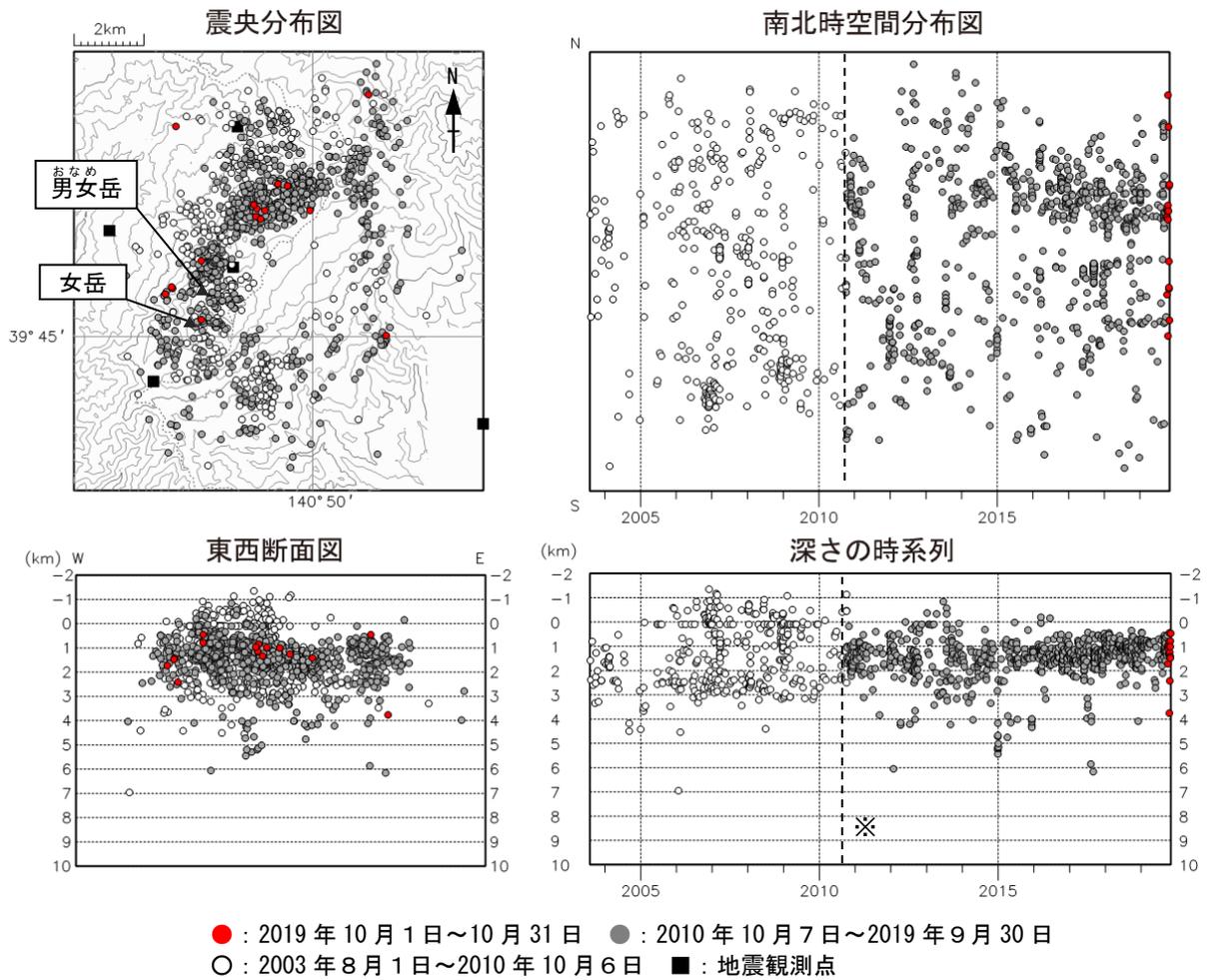


図12 秋田駒ヶ岳 地震活動（2003年8月～2019年10月）

・火山性地震は少ない状態で経過しました。

※2010年10月7日から八合目駐車場観測点を震源計算に使用しているため、震源の深さのばらつきがそれ以前より小さくなっています。

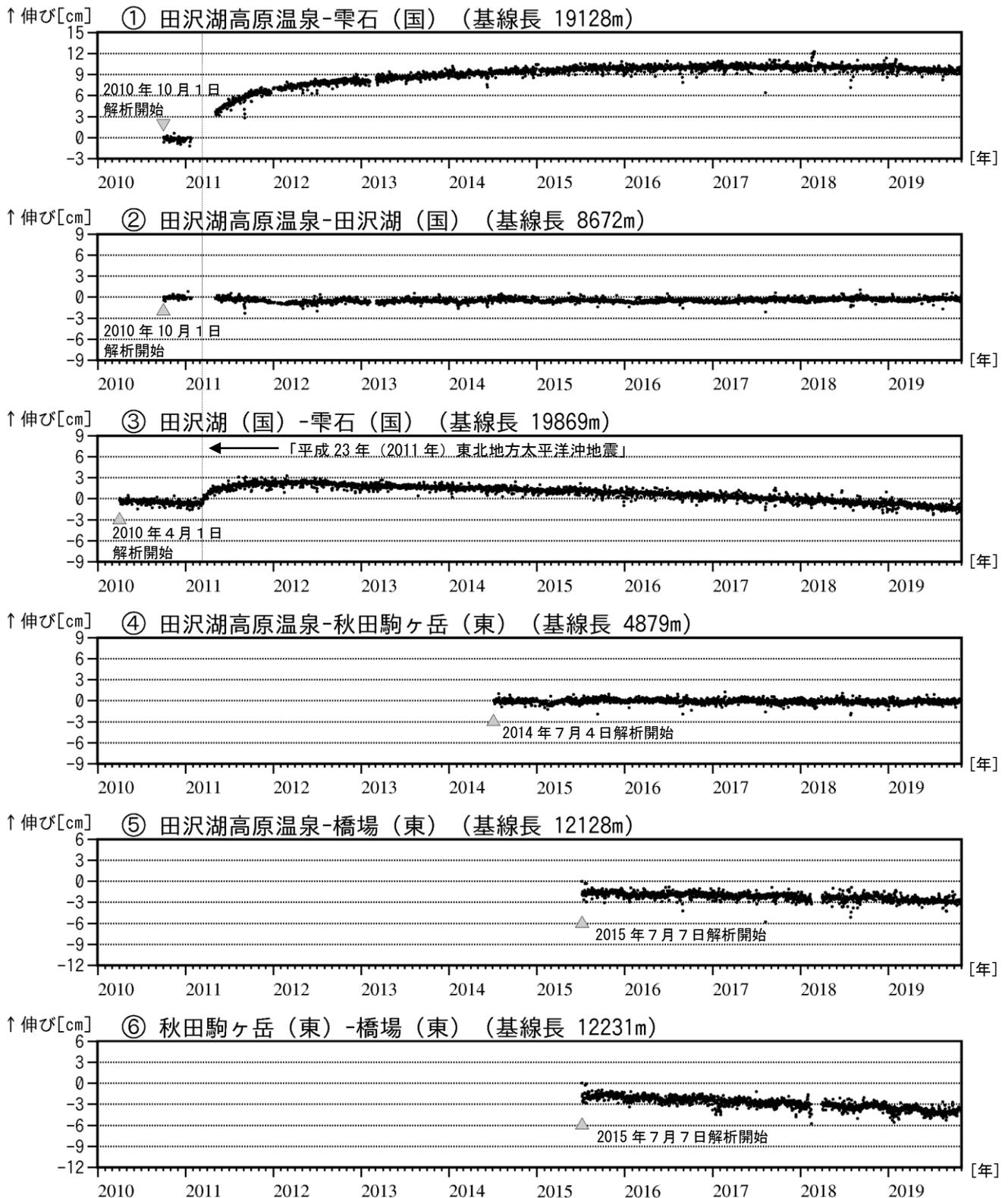


図13 秋田駒ヶ岳 GNSS 基線長変化図 (2010年4月～2019年10月)

- ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑥は図15のGNSS基線①～⑥に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。

